

日本原水協活動交流ニュース

発行:原水爆禁止日本協議会 電話:03-5842-6031
FAX:03-5842-6033 Eメール:antiatom55@hotmail.com

2012年
5月3日
No.26

浅草で原爆展。真剣な目、涙ぐむ人も



広島・長崎被爆写真展 in 東京が5月3日、台東区の浅草公会堂で始まりました。大雨にもかかわらず、北海道、岩手、福島、富山、愛知、広島などから浅草を訪れた観光客、若いカップル、家族連れなどが、次々に会場を訪れました。福島原発事故を体験し、核問題への関心の高さもあり、二人にひとりアンケートと署名に応じました。

小学5年生の時に広島で被爆した山田玲子さんが体験を語り「こんなに悲惨なことは誰にも繰り返させてはいけない」と核兵器廃絶を訴えました。

〇1 日目の感想紹介

「安全保障理事国も含め、本当の意味で生命の尊厳にたった平和への一步を見つめていって欲しいです。人間の1人の可能性を故意に傷つけ、すべてを消し去るエゴの核兵器の使用、保有がなくなることを祈ります。ありがとうございました」(20歳、女性、八王子)

「こんな悲しい出来事が広島、長崎であった事、絶対に忘れてはいけないと思います。核兵器の全面禁止を強く願います」(50歳、女性)

「核兵器、戦争はなくさないといけない」(神奈川県、64歳、男性)

「見ている内に涙が止まらなくなりました。人間が人間を、何のために争うのか、悲しい出来事でした！二度と戦争はして欲しくありません。皆さん頑張って下さい。ありがとうございました」(富山、63歳、男性)

「戦争とは、人間の欲のために、非道な行いをする事、その上、核兵器を使って大量殺人は許しがたいことです。このような催しをもっと若い人たちに見てもらい、語り継ぐことが必要だと思います」(アンケートより)

「原爆での悲惨さに涙し、世界のどこかで戦争があり、少しでも人と人とが仲良く暮らせる日々をと思います」(男性、アンケートより)

「二度とこのような事が起こらないように平和な世界でいてほしいとです」(中央区、男性、63歳)

「今でも核兵器を持っている国が多くある。人間はムダなものを大切にしている気がする。何十年たっても消えない傷痕をこれからもつくるつもりなのか？世界で核兵器が使われた国は我が日本だけ。苦しみを伝えられるのも、我が日本だけ」(足立区、37歳、男性)

「原爆は何のために必要なのか。人の命をなくすためにあるのか。私は福島に住んでいて、この東日本大震災で原子力のおそろしさを今でも身にしみて感じています。微力ながらなくなるその日まで私も声をあげていきたいと思います」(福島、41歳、女性)

「核はいらない。福島の牛乳を飲みたい。福島の野菜を食べたい。福島の肉を食べたい。でも恐くて食べられない……。兵器はなおさらいらない」(会津若松、45歳、男性)

「新しいパネルでの訴えに改めて運動の大切さを痛感しました。被爆者の方の証言は、実感がこもっていて心を打つものがありました」(台東区議)

「核兵器のおそろしさが写真を通してわかりました。なので、核兵器がなくなればいいと思いました」(千葉県八千代市、14歳)

**全国の前爆展の計画や開催結果（記事や写真、参加者の声など）をお寄せ下さい。
全自治体での開催をめざしましょう。**